

(9) 書写教育研究会

会 長 山沖 美保 (下田中学校)
副会長 小川 美香 (下田小学校)
事務局 岡本 恵子 (東山小学校)

1. 研究主題 「教育活動に活かせる書写教育」

2. 研究経過

| 実施年月日 | 研究のあらまし | 会場 | 備考 |
|-----------------|--|-------|-------|
| 令和5年 8月4日(金) | 四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：小筆でスキルアップ ～身近な書～ 講師：小花 典明 (前 四万十市教育研究所所長) | 東山小学校 | 17名参加 |

3. 今年度の取り組み

今年度も「教育活動に活かせる書写教育」というテーマを設定し、講師はこれまでもお世話になっている小花 典明先生にお願いした。昨年は「表彰状に字を書くこと」としていたが、今年度の研修会では「小筆でスキルアップ～身近な書～」の研修を行った。身近にある筆ペン(中字)を使っただけの研修では、軸、全体のバランスを大切にすることに気をつけながら、まずはウォーミングアップとして新聞紙に名前の練習書きをした後、印刷用紙に書く練習をした。その後、暑中お見舞いなどのおたよりを自由な文面で書き、水彩画用の筆で挿絵等を描き入れ、みんなで鑑賞し合った。



4. 今年度の成果と課題

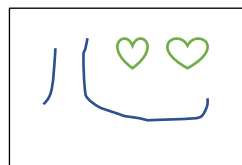
気軽に使用できる筆ペンを使用し、新聞紙を使って練習することで、緊張することなくリラックスした気持ちで書に向かうことができた。

また、名前を筆で書く経験ができ、学校現場で表彰状等に字を書く場面に生かしていけると感じた。

筆を使っただけの書は、1回の研修会の中だけですぐに上達できるものではないが、先生からいただいた「凡事徹底」と書かれた短冊を自分のデスクに置くことで、1日1回は筆ペンで書こうとする気持ちが芽生えた。これからも「書を楽しむ」という気持ちを忘れず、日々の生活の中で筆を執る場面を増やしていき、学校現場での書写教育活動に生かしていきたい。

<小花先生より>

- ・軸を大切に。
- ・自分の書いた字をふりかえる。印をつけながら、自分の好きな字を追求していく。
- ・何回も書いて自分の好きな字を真似ていく。
- ・気軽な気持ちで書ける新聞紙に、1日10分でも字を書いてみる。(真っ白な紙に書くと緊張する。)心も落ち着くし、スキルアップもできる。
- ・名前を筆で書いてみると、インパクトがある。子どもたちも筆に対する視線が変わり、表現することを学んでいく。
- ・自己流だが自分の字で卒業証書を書きたいという気持ちで今まで書いてきた。自分の中にチャンスを与えられる。
- ・段ボールも教材として使える。扉のように折り曲げておいて開くとメッセージが書かれている。
- ・はがきも少しの色付けで字が映えるし、気持ちが伝わる。
- ・筆使いの良さを伝えられる。
- ・絵は全体像を描かず、一部を描くのも味が出て良い。
- ・絵に字を形づけると味が出る。 ➡イラスト参照
- ・朱印をつけるとバランスが良くなる。



<参加者の感想>

- ・バタバタした生活の中で心を落ち着けて書けた。充実した研修だった。お気に入りの字を見つけない。
- ・(見た目どおりの) 細やかな指導でした。
- ・字を書いていたらあっという間に時間が過ぎたのですが、気持ちのよい時間だった。自分のため、人のために書きたい。
- ・今日は生徒の字をいっぱい書けた。楽しむって大事。先生の声がけで気持ちよく書けた。
- ・字を書くのがあまり好きではないのに書道部顧問になっている。生徒のため、自分のためになった。新聞紙なので抵抗なく書けた。毎日1分でも頑張りたい。
- ・自分の字が好きではないが、上手な字でなくて良いので、自分の好きな字を探していきたいと思った。楽しかった。
- ・筆を持つ事によって、心の奥に思った言葉がふっと出てきた。楽しんで書くことができた。子どもたちにも字の楽しみ方を伝えたい。
- ・力まず、気負わず、楽しみながら自分のペースで書けた。毎回たくさんの準備を先生がして下さるのがありがたい。
- ・自分磨きができた。子どもたちと同じ気持ちになれた。この気持ちを子どもたちにも体験させたい。書をたしなむことを伝えたい。

